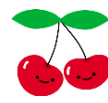




さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 7 令和6年2月16日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL:<http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

あっという間に2月になりました。3学期に入り、子どもたちは心も体も一回り大きくなったように感じます。今回は、子どもたちが進級や進学に向けて成長している様子をお伝えします。

友達が一緒に楽しいね(花組)

3学期になり、花組の子どもたちは、朝登園するとすぐに何して遊ぼうと思いを巡らせ遊び出す姿があります。戦う武器をつくったり、なりきるアイテムをつくったりして遊びに必要なものを自分達で準備したり、好きな曲をかけて踊ったりしながら、友達が来るのを待っていたりやりたいことを見つけて遊びだす子どもたち。最近、仲良しの友達と一緒に遊びたいという思いから、登園してすぐに友達に「今日、一緒に遊ぼう！」と誘ったり誘われたりして遊び出します。また、自分達で「お店屋さんするから、机がいる。」や「ここにお家をつくるね。」と自分達の居場所をつくって遊ぼうとする姿も増えてきました。それぞれに幼稚園で遊びたいことを、考えたり見つけたりしながら、仲良しの友達と遊び出す、その成長が嬉しく思います。そしてつい最近まで、保育者と一緒に遊び出していた子どもたちも、友達と一緒に過ごすことが楽しくて、保育者を呼ぶのは用事があるときだけということも！

幼稚園で豆まきをした次の週には、花組では、「鬼だぞ〜！」と追いかけてこをする子どもの姿もありました。Aちゃんが「先生、鬼になって。」と言うと、周りにいた子どもたちも、キングオーガー、プリンセス、カービィとそれぞれがなりたいキャラクターになってすぐに集まりました。「鬼だぞ〜」と保育者が追いかけると、「キャー」と叫んで逃げたかと思えば、「鬼は俺が倒す！」と剣を振るBくん。「Bくんがやられそうだったら行く！」とCくん。Dちゃんが「Aくんと一緒に鬼を倒す。」と、子どもたち同士でそれぞれの言葉を聞いて、遊びを進めている姿にまた一段と成長を感じたところでした。少し経つと、どこからか「ごはんです！」と声が聞こえ、砂場でつくった料理をふるまおうとするEくん。今まで遊んだことを思い出しながら、自分達で友達やお客を呼ぼうとする姿にも成長を感じます。

友達とかかわりが増えていく中で、思いがぶつかることも増えてきました。友達の思いを聞いたり考えたりできるように、友達とのやりとりを支え、友達の良さを感じながら楽しい時間を過ごしてほしいです。(尾川)

みんな、風組の仲間になりました！(風組)



今年の風組さんで一番盛り上がったお正月遊びはコマ回し。「花組のときも、この回し方できたよ」「キノコ回しできるよ」「前の保育園でもやった」など、去年のことを思い出し、話をしていると「色付けよう」と、自分のコマを塗り始めたAくん。そんなAくんを見てみんなも自分のコマに色を付け始めました。それから、毎日少しずつ着色し色の変化を楽しんでいたある日、「ねえ、みんな。僕のブルーベリー知らない？」「あっ、それならさっき机のところで見た」「あった。ありがとう」と、Bくん。この会話を初めて聞いた人は、これがコマの話だとはだれも思わないでしょう。Bくんのコマは、いろいろな色で着色を重ねて食べごろのブルーベリー色になっています。「ブルーベリー」の一言で、Bくんがコマの話をしていると伝わる姿に、友達関係の親密さや温かさを感じ嬉しくなりました。

「難しい」と、こま回しに苦戦していたCちゃんに「手をパッとするんじゃなくて、前にシューってする」と手を放すタイミングのアドバイスをするDくん。「シューってする前に、たくさんこうやった方がいいよ(コマの柄を挟んで手をすり合わせる)」とEくん。「そうそう。そんな感じ」というDくんEくんの励ましを受けながら、Cちゃんは何度もコマ回しに挑戦し、ついに回せるようになっていました。

コマが簡単に回せる人たちの興味は、コマでバトルをすること。Jくんは、廃材棚から空き箱をもってきて、サッカーコートのような線を書いてみたもののイメージと違ったのか納得がいかない表情をしています。一緒にいたDくんと「箱をつなげる？」「でもさ、(つなぎ目の段差で)ガタンってなったら嫌やん」「この箱は？この箱大きいから、いいんじゃない？」と、バトル場について話し合い、教材室にストックしていた大きい箱を使うことで話がまとまりました。「いいやん。この箱」「こっから落ちた人が負けね」とJくんとDくんが遊び方を考えていると「僕も入れて」「僕も」と他の男の子たちも集まって来て、バトル場の周りは大混雑。「こんなに来たら無理。別のバトル場つくってよ」「なんでよ」「狭いもん」「なんでここでできないの」「だって、僕たちが始めたんやし」「そんなの、ずるやん」「ずるじゃない…」と、それぞれの溢れる思いを、保育者も一緒になって整理していくうちに、箱の側面に一人ずつスタンバイできるように、バトルする人は4人と決まりました。みんなで話し合い納得して決めたことは、みんなのルールとして守れるようになっていくことも嬉しい成長です。数日後、コマのバトル場は「待ってるときにここで練習」と、小さくてバトル場としては採用されなかった箱たちが、バトルの順番を待つ間の練習場になっていたり、「今度お父さんが幼稚園に遊びに来るから、チームがわかるように色を付けよう」とバトル場が4色に着色されたりとさらなる進化を遂げていました。

これまで一緒に過ごしてきた10か月。たくさんのことを積み重ねてきました。友達の気持ちに気づいたり思いやったりする優しさや、生き生きと自分を発揮する力をもっている風組さん。進級を意識する時期になりましたが、今年度の残り2か月、充実した豊かな日々を風組として楽しみたいと思います。(中原)

小学校、楽しみだな！(星組)

1月の半ばごろから、小学校を意識した声が聞こえてくるようになりました。それぞれに好きな色のランドセルをつくりながら「学校のノートもつくりたいね。」「筆箱の中に消しゴムもいるよね。」「見て！キッズスマホできたよ。」と廃材で小学校の道具をつくる女の子たち。黒板の前に机といすを置き、気分はすっかり小学生です。「Aちゃんが先生になりたい！先生は校長先生になっていいよ。」と、算数の勉強が始まりました。その他にも、大型ブロックで場をつくり、神様とえんま様になって遊んでいた子どもたちからは、「このテストで100点を取ったら天国に連れて行ってあげましょう。」なんて声も聞こえてきました。

ある日、大庭ではないちもんめをしていると、小学生から「幼稚園のみんなも一緒にちもんめしない？」とお誘いがありました。星組と小学校をつなぐ階段の下にはきれいな芝生の広場ができ、昼休みには小学生もはちもんめを楽しんでいたのです。「私のお姉ちゃんがいる！」「あの子知ってる！前に星組にいたよね。」と見知った顔に喜んで、たくさん子どもたちが参加しました。初めての場所にドキドキしていたBちゃんに「一緒にやる？先生の隣に行ってみる？」と小学生からの優しい言葉も。にぎやかな声が校内に響き、帰り際には「また明日もよろうね！」と手を振り合う姿も見られました。



1月末からは給食体験が始まりました。前日に小学校の栄養教諭の瓦屋先生から“給食のお話”をしていただきました。「小学校では1日に450人分の給食をつくっている？」「給食は自分で運んで配っている？」などの給食にまつわる〇×クイズでは、「450?!そんなに多いわけないやん！」「小学生になったら自分でやるんだよね〜。」などいろいろな反応があり、正解を聞くたびに驚きや発見がありました。給食室の中で調理する映像も見せてもらい、見たこともない量のご飯をつくる様子にびっくりしていました。最後に瓦屋先生から「Cさんは、1年生の時に牛乳が苦手だったけど、毎日1口だけ飲むことを頑張っていたら、5年生になったときには全部飲めるようになったんだ。みんなも苦手なものがあっても残して大丈夫だよ。でもみんなの体の栄養になるから1口は頑張っておいてほしいな。」というお話がありました。そして、待ちに待った給食の時間。映像で見た1年生の待ち方を真似て、姿勢よく静かに待ち、一人ずつ自分の食べられる量のお皿を選んで自分の席に運んでいきます。瓦屋先生の言葉を思い出し、「これ苦手だけど、1口頑張ってみる。」と挑戦する子どもたちがたくさんいました。給食は普通の弁当と違って見慣れない食べ慣れないものもたくさんあります。でも1口食べてみると「これ美味しい！」「おかわりしたい！」と美味しさに気づき、食への意識や関心が高まっていることに嬉しく思います。

様々な場面で小学校を身近に感じ、進学への期待が高まっているこの頃です。今後も5年生との交流活動などを予定しています。そして最後の園生活をしっかり楽しみ、思い出に残る日々を過ごせるようにしたいと思います。(雨谷)